

熱帯の有用材 (14)

緒 方 健

チトラ (Tchitola)

学名 : *Oxystigma oxyphyllum* (Harms) J. Leonard (マメ科)
 (Syn. : *Pterygopodium oxyphyllum* Harms)

Oxystigma 属はマメ科カワラケツメイ亜科 (Caesalpinioideae) に属する樹木で約8種からなり、熱帯アフリカに分布する。そのうち、木材樹種として最もよく知られているのは本種 *O. oxyphyllum* である。

チトラはナイジェリア南部からカメルーン、ガボン、コンゴ、カビンダ、ザイールおよびアンゴラにいたる熱帯西アフリカの常緑降雨林に生育する。木材の商業名としては元来コンゴの名称であったチトラが広く用いられるが、このほか地方名には Lolagbola (ガーナ、ナイジェリア)、Emoli, Emolo または M' babou (ガボン)、Kitola または Tuba (コンゴ)、Maranda または Tshibudimbu (ザイール)、Chanfuta, Tola Chinfuta または Tola Mafuta (アンゴラ) などがある。またこの最後の2つの名称にもあるように、しばしば Tola のつく名称が用いられ、商業的にも Tola Rouge, Rotes Tola または単に Tola と呼ばれることがある。しかし Tola の名称はアグバ (Agba : *Gossweilerodendron balsamiferum* (Verm.) Harms) に対しても用いられるので、注意を要する (本誌 No. 9 参照)。

樹木の形状 : 樹高 45 m, 直径 60~180 cm に達し、15~20 m の枝下高がある。樹幹は通直、円筒形で、板根は発達しないかわずかである。樹皮は灰色~灰緑色を示し、若木ではほぼ滑らか、老木では縦に割れ、剥片状にはげる。幹を傷つけると、はじめ緑色を帯びやがて暗褐色になるヤニ状の樹液が出る。葉は長さ 12~20 cm ほどの奇数羽状複葉で、5~9 枚の小葉が互生する。小葉は長さ 5~7 cm, 幅 2~3 cm の楕円形で短い小葉柄がある。花は淡黄白色で小さく、穂状に集まったものが円錐花序をつくり、頂生または腋生する。果実は翼果で、長さ 6~10 cm, 幅 1.5~2.0 cm の長翼があり、その先端に1個の種子がある。

木材の特徴 : 辺材は淡桃色~灰褐色で、一般に幅が広く、丸太断面の面積の3分の2に達することがある。心材は黄褐色~橙褐色~赤褐色で、ややウォールナットを思わせる暗緑褐色~暗紫褐色の不規則な縞をもつことが特徴である。垂直樹脂道が存在し、そのためしばしば縦断面にヤニが濃褐色のしみ状に出ているのがみられる。肌目の精粗は中庸~やや粗、木理はほぼ通直か浅く交錯する。気乾比重 0.58~0.67。

顕微鏡的な識別上の特徴としては、道管は孤立するものと半径方向に2~4個複合するものからなり、孤立管孔の接線方向の径は 130~250 μm 。道管の分布数は 2

◎熱帯林業講座◎

～4/mm²。放射組織は1～3列だが、多くは2列で単列のものは少ない。放射組織の最大高は約1200 μm。軸方向柔組織は道管の周囲にある周囲～翼状（～連合翼状）柔組織と細い带状柔組織とからなる。後者は間隔が不規則で、密な部分では0.2～3 mm

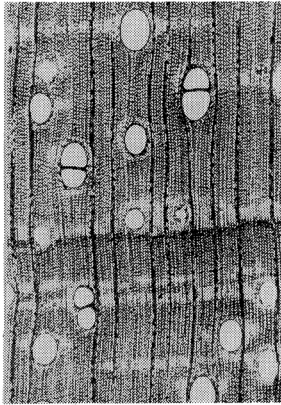


写真-1 *O. oxyphyllum*
木口面 (16×)

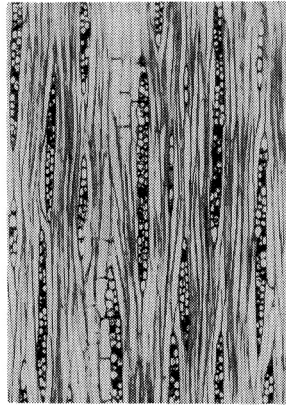


写真-2 同左板目面 (40×)

間隔、粗なところでは1 cm ほどの間隔で存在し、ルーペで淡色の線として認められる。繊維は長さ0.7～1.6～2.3 mm。結晶がくさり状に連なる多室結晶細胞が存在するが、ふつうあまり多くない。シリカは含まない。先述のアグバと同様に垂直樹脂道が存在するのが *Oxystigma* 属の著しい特徴で、木口で見ると接線方向の径が120～160 μm の楕円形をしており、全体に散在して分布する。径が大きく（アグバでは50～70 μm）道管に似ているが、細胞壁がないので道管と区別でき、ルーペでも注意すると認められる。垂直樹脂道はフタバガキ科を除けばごく限られた樹種（マメ科ではこのほか *Copaifera*, *Sindora* などカワラケツメイ亜科の全部で10属）にだけみられる性質なので、木材識別上の重要な特徴となる。

木材の加工性としては、乾燥は比較的容易で、狂いが少なく、乾燥後の寸法安定性は良好である。製材はヤニが鋸の刃をつまらせる点を別にすれば容易で、仕上げ加工も良好である。強度は比重相当で、センダン科のアフリカンマホガニーやサペリとほぼ同等とされる。辺材は菌や昆虫に犯されやすい。

用途としては心材はウォールナットに似た縞を生かして家具、キャビネット、造作材などに用いられるが、それほど高級材とはみなされていない。辺材幅が大きいこと、ヤニによるしみが出ることも欠点とされる。また合板用材としても用いられる。

Oxystigma 属のこの他の種としては、*O. buchholzii* Harms, *O. mannii* (Baill.) Harms などがあり、後者から得られる樹脂はワニス原料や医薬として用いられる。この属にきわめて近縁な属として *Prioria* 属がある。これは *Cativo*: *P. copaifera* Gris. の1種だけからなり、ジャマイカ、ニカラグア、コスタリカ、パナマおよびコロンビアに分布する。樹高40 m、直径1（～1.5 m）に達する高木で、マングローブの後背林として純林に近い森林を形成することがある。材は軽軟で、気乾比重約0.48。垂直樹脂道がある。合板、造作材などに用いられる。